

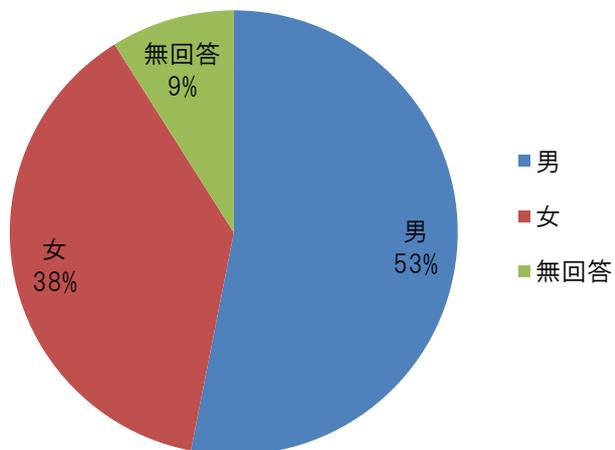
## 生活保護受給者の生活実態調査報告

- 調査期間:2013年2月～3月
- 調査対象:東京民医連加盟事業所に受診歴のある患者で生活保護受給者
- 調査方法:面接・聞き取り式
- 調査件数:137件

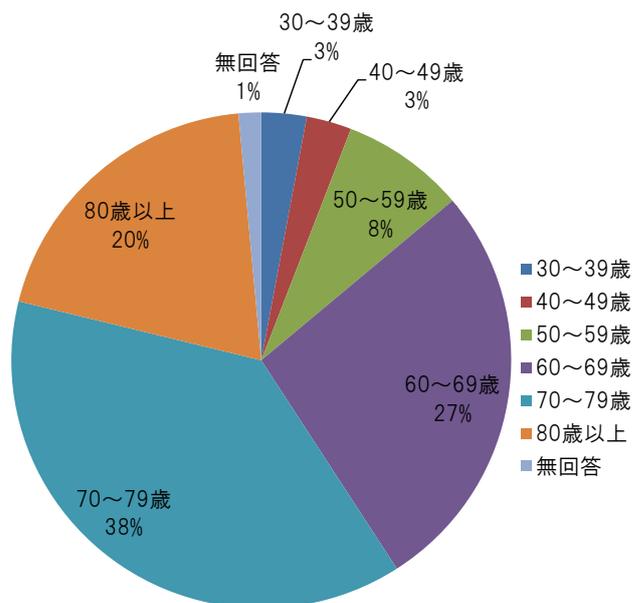
### 調査の動機と目的

- 生活保護受給者の生活実態を明らかにする。
- 生活保護受給者のなまの声をつかむ。
- 生活実態となまの声から、国のすすめる生活保護基準切り下げは妥当なものであるか検証する。

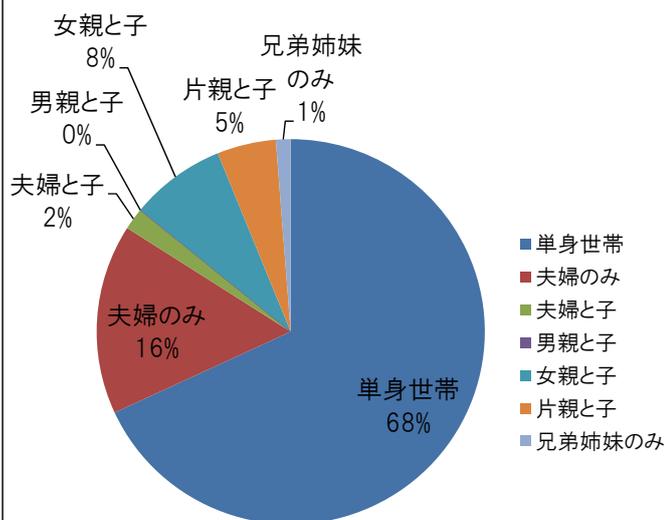
### 調査対象者男女比



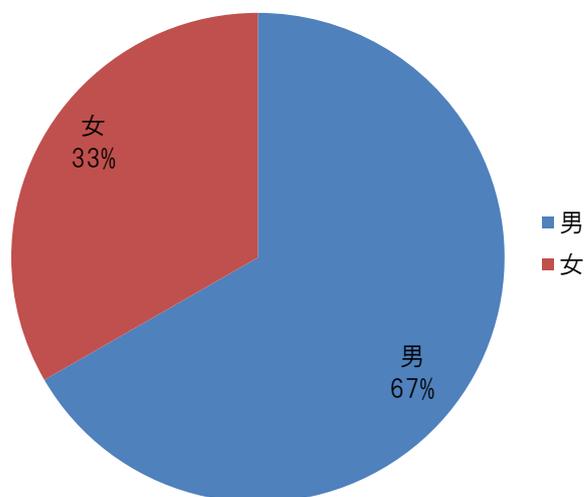
### 調査対象年齢

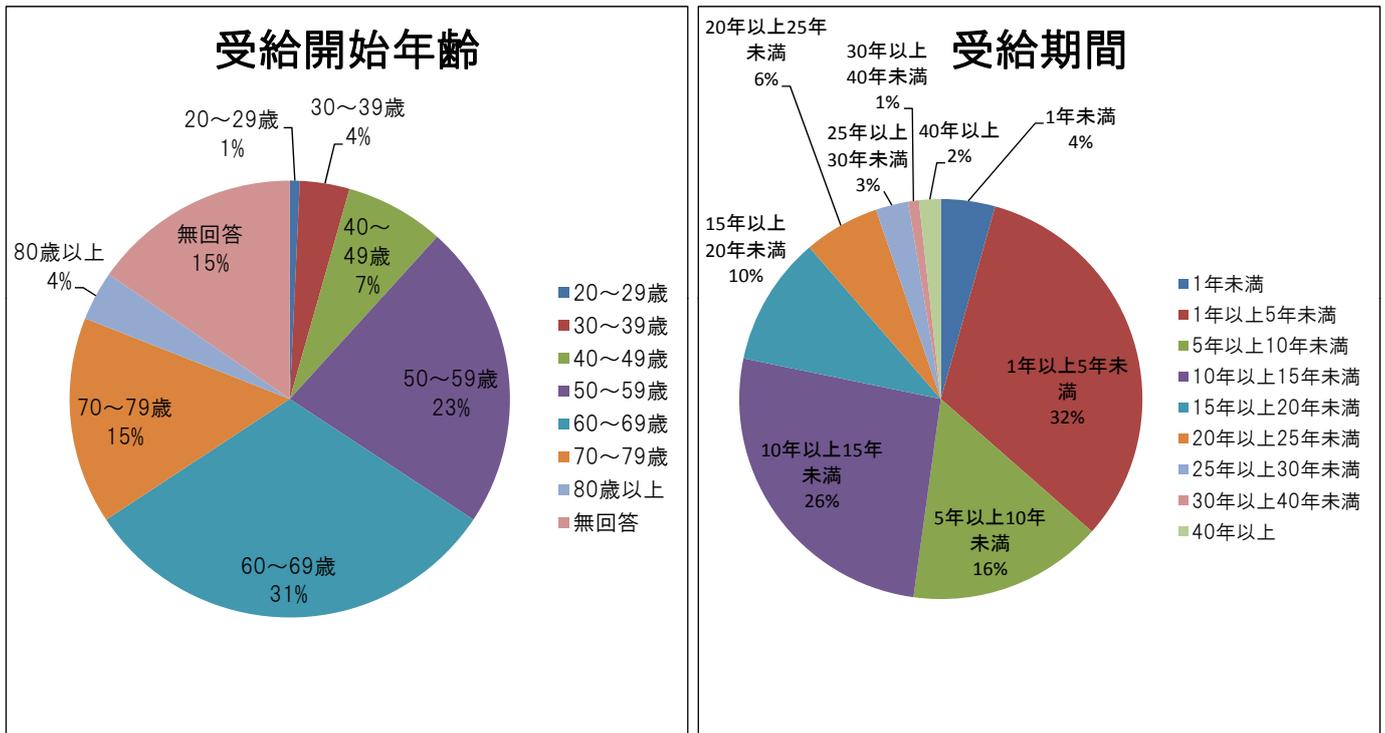


### 世帯構成

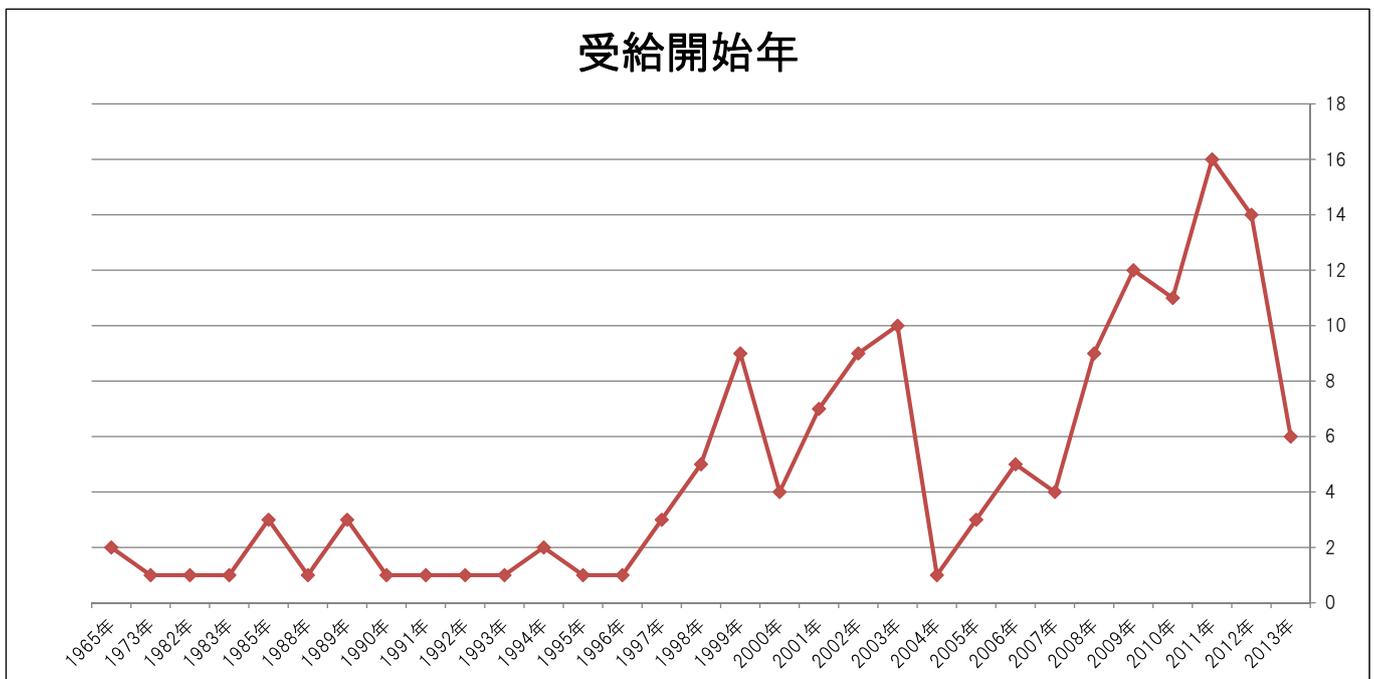


### 単身世帯男女比



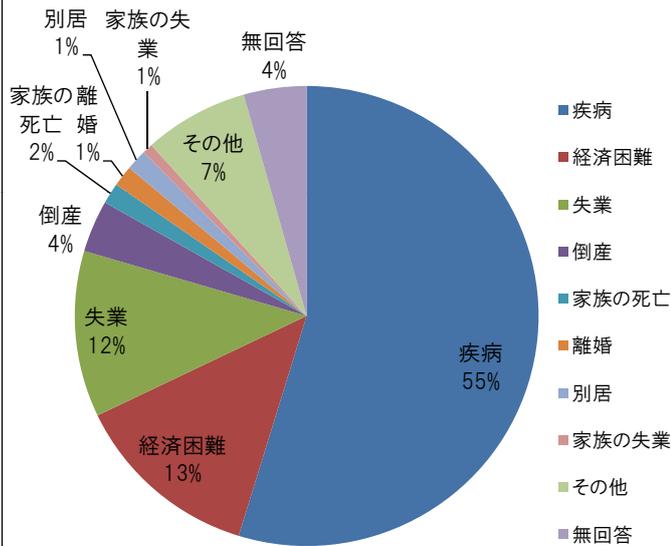


・医療機関が行なった調査のため、病気になりやすい年齢の方が多い。

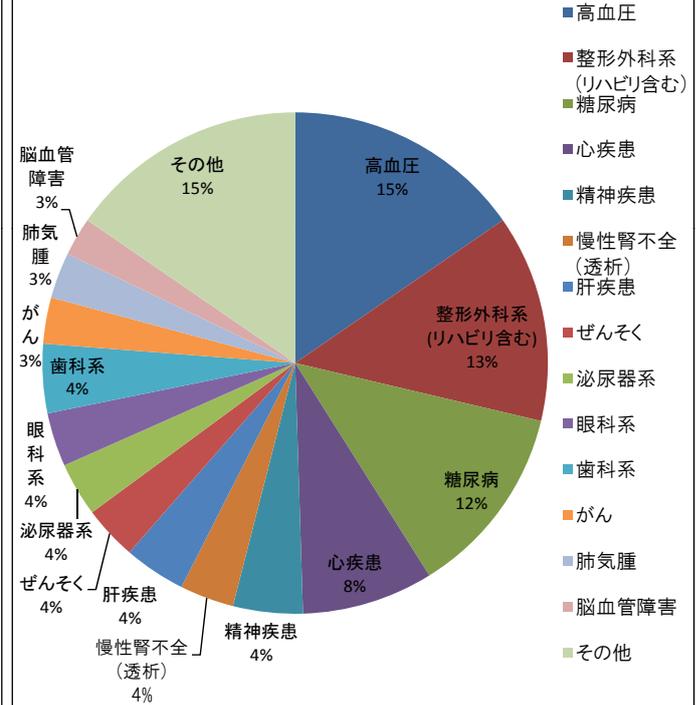


・今回の調査では、90年代後半から受給者の増加がみられる、さらに2008年(リーマンショック)以降の増加率も特徴的である。  
 ・国全体の受給世帯の増加と同様な傾向がうかがわれる。

## 生活保護申請のきっかけ



## 疾患の種類



### 生活保護申請のきっかけ

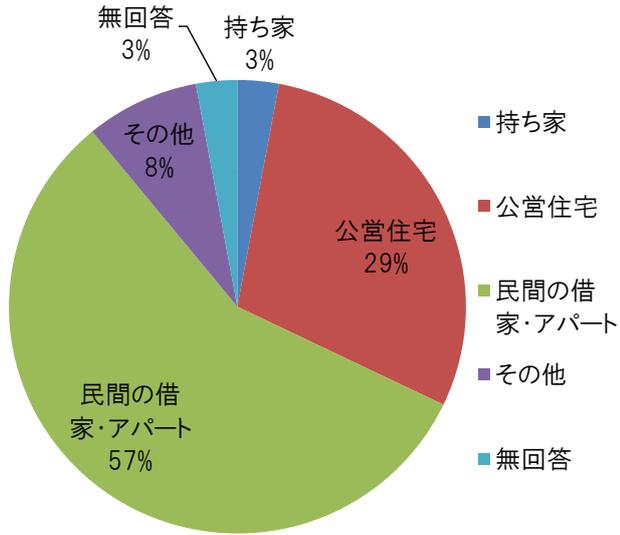
脳出血で倒れた為。	単身-男	70歳代
妻と離婚し、病気で就労困難となった。	単身-男	60歳代
精神科での入院を期に。親とはおりあいよくなく、一緒に生活できないということで独居となった。	単身-男	30歳代
夫との離婚で収入がなくなり高齢な親の介護もかさなり、生活が困難になった為。自分も仕事をしたが体調をくずした。	両親と本人(女)	50歳代
夫と離婚し、精神疾患の息子と一緒に生活していくと決めた時。	母子世帯	90歳代
同居していた知的障害の長女と合わせて医療費が2万~3万になってしまったから。	母子世帯	70歳代
主人が結核になって働けなくなった。子供3人いて生活苦で申請した。	夫婦と子	70歳代

### 受給者の声

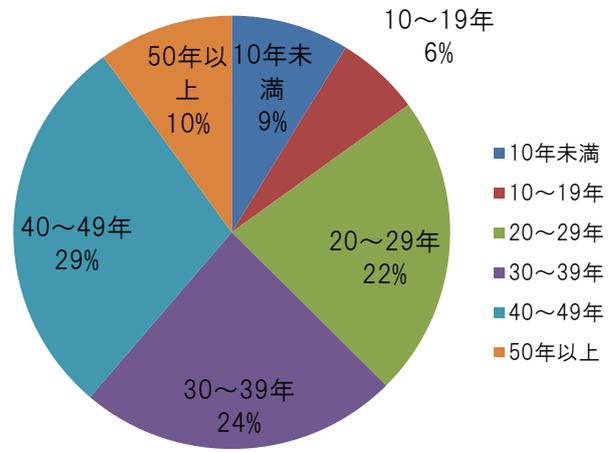
体調を考え、少しでも仕事をしたい。	単身-男	70歳代
病気のために働けない。働きたい気持ちはあるが、無理である。	単身-男	60歳代
仕事をしたくても心疾患あり、年齢的に職安に行っても仕事がなかった。	母子世帯	70歳代

・「働かない」のではなく「働けない」状態がほとんど。

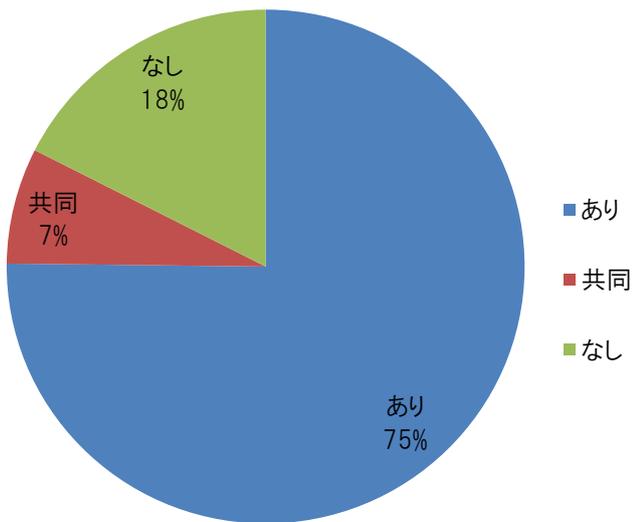
### 住居形態



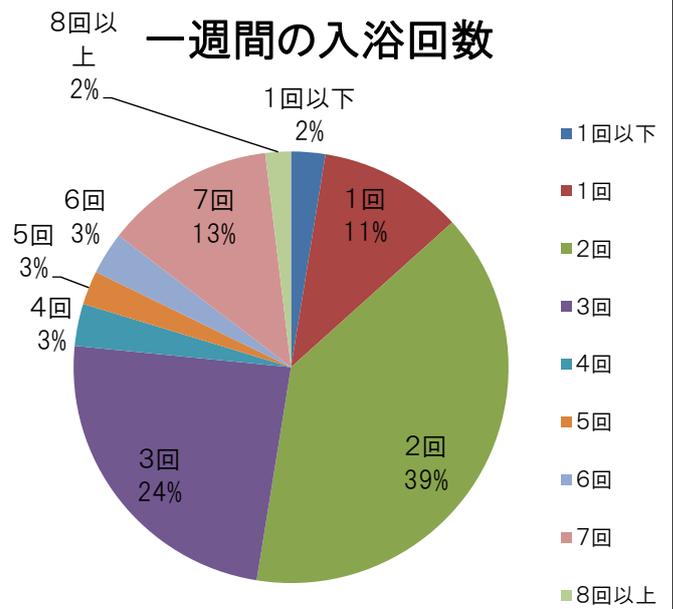
### 築年数



### 風呂の有無

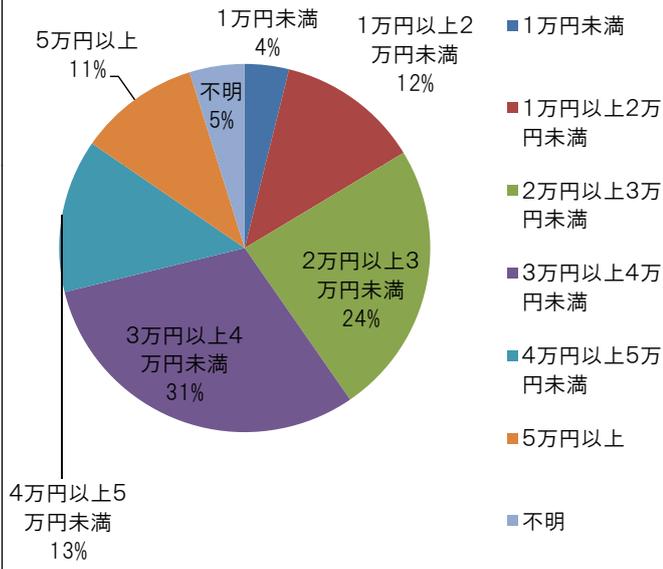


### 一週間の入浴回数

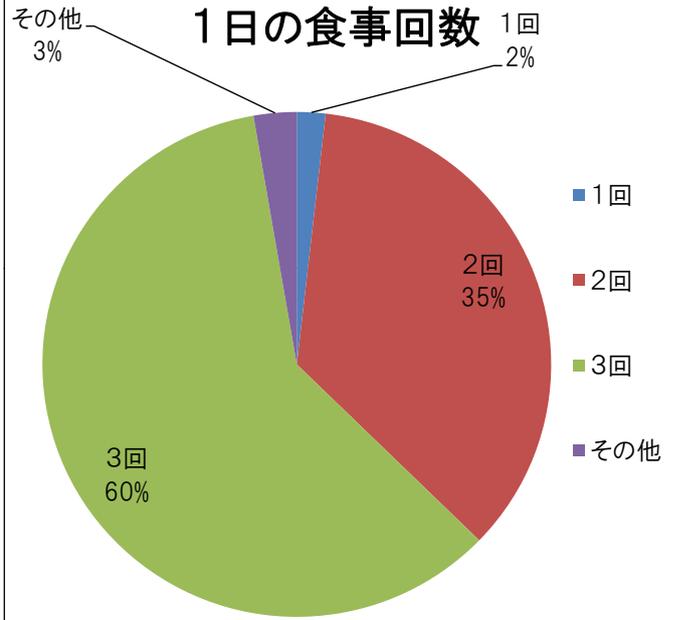


・水光熱費の節約のため、毎日入浴する人は少ない。週3回以下は76%。

### 1カ月の食費

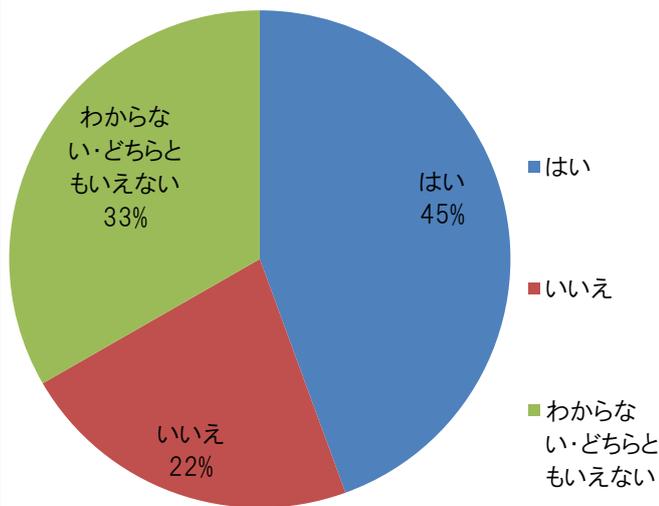


### 1日の食事回数



- ・一日の食費1000円未満が40%。
- ・37%は一日の食事は2回以下。

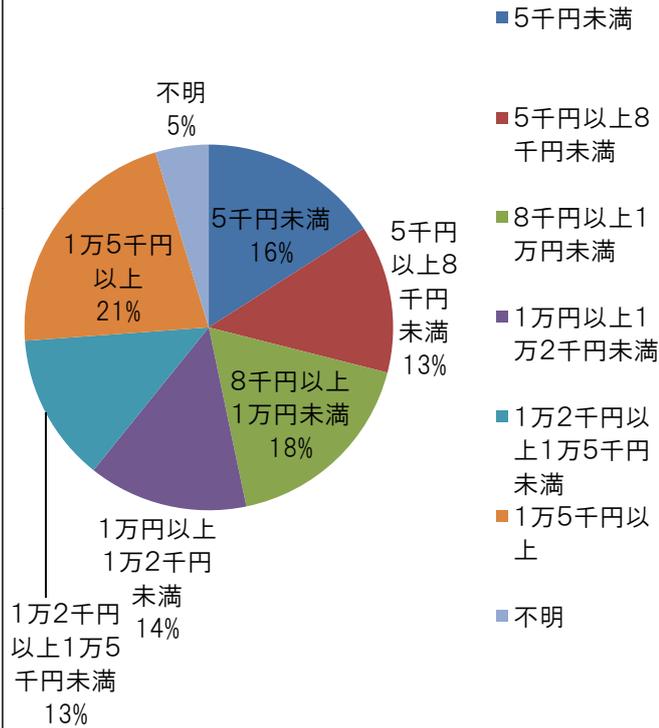
### 食事満足・十分な栄養



#### 食事の節約

外食はしない。	単身-女	80歳代
食事を1日2食にしている	単身-男	60歳代
昼食は二日に一回にする。	単身-男	50歳代
朝コーヒー。昼夜300円弱牛丼です。	単身-男	70歳代
インスタント食品中心。	単身-男	60歳代
スーパーで惣菜を買ってくる。調理はほとんどしていない。	夫婦のみ	60・70歳代
食費、光熱費を抑えてる。おかずは毎日食わず、ラーメンと、白飯にしている。	夫婦のみ	70・80歳代

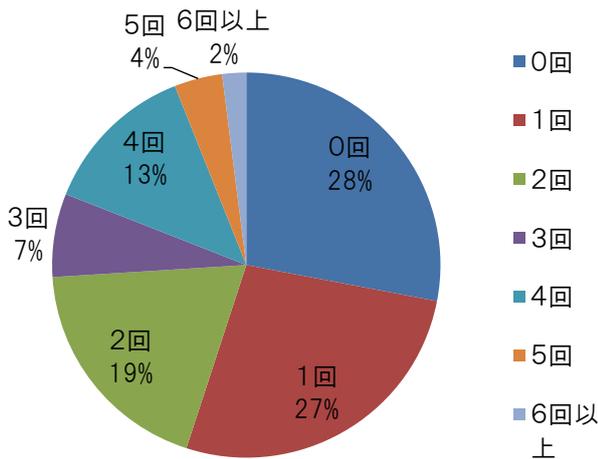
## 光熱費



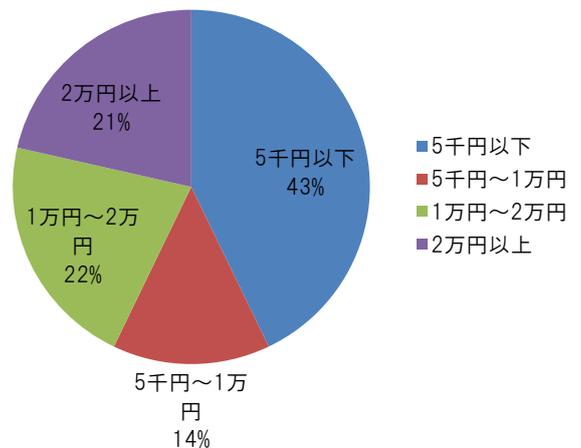
## 水光熱費の節約

電気は極力使わないようにする。	単身-男	60歳代
TVや電気も極力つけない。	単身-男	40歳代
寒くても重ね着してエアコンを我慢する。	単身-女	70歳代
夏、エアコンはあるが使用せず扇風機を中心に使用。	夫婦のみ	70歳代
けい光灯2本の所1本にして夜8:30以降は豆球だけ。	単身-女	70歳代
トイレは2~3回に1度しか流さない。	単身-女	60歳代
コインランドリーはなるべく日数を減らしている。	単身-女	70歳代

## 被服履物購入回数(年間)



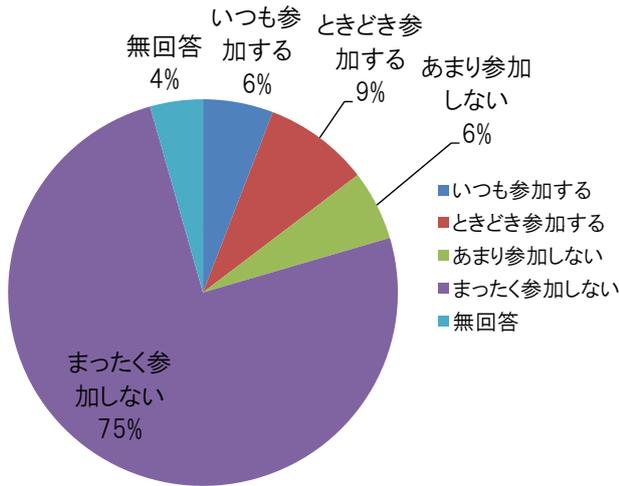
## 被服履物購入費用(年間)



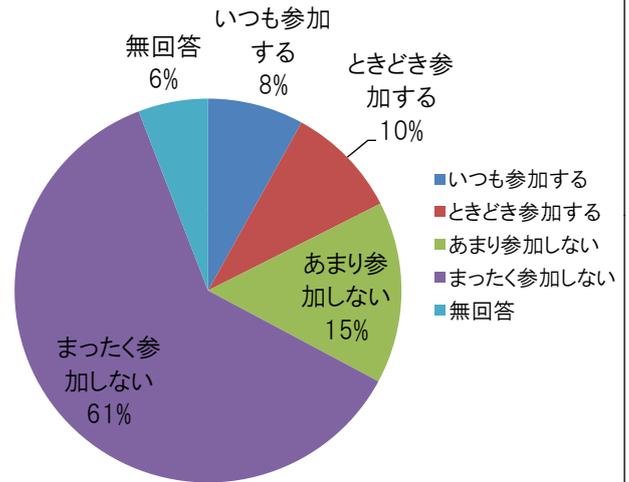
## 被服履物に関する声

洋服は買えない。	単身-男	60歳代
服、くつはかわない。むかしのものをつかっている。	単身-女	80歳代
衣料は知人から頂く物で多くをまかなう。	単身-女	80歳代
洋服は何十年も買っていない。下着を買いたす程度。	単身-女	80歳代
衣類はなるべく新しいものを買わない。余ったお金は子どもに使わせてあげたい。	母子世帯	50歳代

## 地域行事への参加



## 冠婚葬祭



### 人付き合いに関する声

出かけないようにしている。	夫婦のみ	70歳代
人のおつき合いをしないようにする。	単身-男	70歳代
なるべく人と会わないようにしている。お金がかかるから。	単身-女	70歳代
友人との食事(外食)はできるだけ断る。	単身-女	80歳代
友人を減らして交際費を切りつめる。	夫婦のみ	60歳代
葬式に行けなかった。足代、香典がなかった。	単身-男	70歳代

### 修繕が必要なもの(件数)

冷蔵庫	5	ストーブ	2
洗濯機	5	たたみ	2
エアコン	5	自転車	2
タンス	4	ビデオデッキ	2
ガスレンジ	4	ドア	2
電子レンジ	4	クロス	1
湯沸かし器	3	風呂	1
トイレ	2	パソコン	1
水道	2	ラジオ	1
テレビ	2	ミシン	1
炊飯器	2	電気カーペット	1
床	2	扇風機	1
こたつ	2	網戸	1
カーペット	2	棚	1

・家電製品の値下がりや給付引き下げの根拠としているが、冷蔵庫、洗濯機、エアコンなどの生活必需品は修繕が必要な状況で、新規購入できていないことが現状である。

生活保護を受給してよかったこと			生活保護を受給してわるかったこと		
今も生きていられる。	単身-男	40歳代	なし。受けられるだけでよい。	単身-男	60歳代
なんとか生きていけた。医療費の心配なくなった。	単身-女	70歳代	肩身の狭い思いをしている。	単身-男	50歳代
働けないので助かっている。	単身-男	60歳代	人に迷惑をかけて生きているのが心苦しい。	単身-男	60歳代
毎月、電気・ガスが止められなくなった。ほっとしている。	単身-男	60歳代	生活保護を受けている事を知人などに話をする事ができず、ひけめを感じながら生活している。	母子世帯	30歳代
野宿生活からでられた。もう今の生活を失いたくない。	単身-男	60歳代	精神的なうるおいはない。	単身-女	70歳代
ケースワーカーに相談できること。生活の不安がなくすごせる。	単身-女	30歳代	目をつけられているように感じる。	単身-男	30歳代
このお金のおかげで自分達も生活が出来るし、息子(精神疾患)の家族会にも参加できて大変助かっている。	母子世帯	90歳代			

- ・受給者のほとんどは生活保護制度に感謝しているが、同時に後ろめたさや引け目を感じている。
- ・「また働いて、生保をやめたい」「受給せずに生活ができるようになりたい」との声も多い。

### 利用率・捕捉率の比較 (2010年)

	日本	ドイツ	フランス	イギリス	スウェーデン
人口	1億2700万人	8177万人	6503万人	6200万人	941万5570人
生活保護利用者数	199万8957人	793万5000人	372万人	574万4640人	42万2320人
利用率	1.6%	9.7%	5.7%	9.27%	4.5%
捕捉率	15.3~18%	64.6%	91.6%	47~90%	82%

(【あけび書房】「生活保護『改革』ここが焦点だ！」(生活保護問題対策全国会議【編】より)

## 調査結果と提言

- 調査にご協力いただいた方々は疾病による失業で貧困に陥り、生活保護受給に至ったケースがほとんどであった。
- 高齢の単身世帯で、社会的に孤立している人が多く、水光熱費の節約のため、入浴や食事回数を減らし、人との付き合いも控えている。
- こうした生活は健康で文化的な最低限度の水準を満たしているとは言い難い。日本の最低生活保障の水準を問い直すべき状態といえる。
- 今回の保護基準の切り下げは、当事者の実態や意見を聞かずに強行されようとしている。この事態は生活困難をさらに拡大させ、いのちと健康を危険にさらす可能性が高い。
- 不正受給は全体の1%以下(0.38%:2010年)であり、受給者すべてに対するバッシングはやめるべきである。
- 生活保護基準の切り下げをただちに中止することを国に強く求める。